

# CASBEE® - 建築(新築) 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	Asian Frontier 6号棟増築工事	階数	地上3F
建設地	福岡県北九州市八幡東区大字前田2142-1の一部	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	0人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年11月 予定	評価の実施日	2015年11月9日
敷地面積	39,899 m <sup>2</sup>	作成者	小澤賢人
建築面積	2,918 m <sup>2</sup>	確認日	2015年11月16日
延床面積	5,168 m <sup>2</sup>	確認者	戸部篤子



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.8**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%

②建築物の取組み 78%

③上記+②以外の 78%

④上記+ 78%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.0**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 0.0

音環境	温熱環境	光・視環境	空気質環境
N.A.	N.A.	N.A.	N.A.

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 4.3

機能性	耐用性	対応性
N.A.	3.9	4.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

生物環境	まちなみ	地域性
1.0	3.0	2.0

**LR のスコア = 3.9**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.6

建物外皮の	自然エネ	設備システ	効率的
N.A.	3.0	5.0	4.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

水資源	非再生材料の	汚染物質
3.4	3.3	3.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.4

地球温暖化	地域環境	周辺環境
3.8	3.2	3.2

3 設計上の配慮事項	
<b>総合</b> 注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 敷地内既存建物との調和、将来計画を見越した配置計画	<b>その他</b> 注) 上記の6つのカテゴリ以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
<b>Q1 室内環境</b> 注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 メンテナンス作業に対する照度環境を確保した計画	<b>Q2 サービス性能</b> 注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 将来の余剰スペースを確保したゆりのある平面断面計画。 設備機器の二重化等による信頼性の高い計画
<b>LR1 エネルギー</b> 注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 既存建物の余剰エネルギーを有効活用	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 N2ガス消火を採用し、汚染物質含有材料の使用を回避した計画
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 既存建物と調和する色や材料を採用	<b>LR3 敷地外環境</b> 注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 燃焼機器を一切使用せず、大気汚染へ配慮した計画

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される